

2020年12月2日

粉体工学会「省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携ワークショップ」
終了報告書

代表 岐阜薬科大学 田原耕平

●活動期間

2019年度～2020年度(2年間)

●概要

機能性粒子の設計技術は医薬品のみならず食品や化粧品、農業分野など幅広く応用されており、その重要性はより一層増している。医薬品製造に目を向けると、固形製剤の連続生産など新しい粉体プロセスの技術開発が注目されており、革新的な技術で高品質なものを効率的に製造しようという機運が高まっている。このように、医薬などの粒子設計や粉体プロセスに関する研究は、薬学と工学の境界領域である。そこで本ワークショップでは、分野横断的な学際的議論をする場を提供することで薬工連携を促し、粉体工学の更なる発展に寄与することを目的とした。

2019年度は本ワークショップメンバーが中心となり春期研究発表会で関連するシンポジウムを企画し、別途2回講演会を開催した。2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大のため、対面での講演会開催が困難であったが、Web会議アプリを活用したオンラインでの講演会を企画し、薬工、若手、産学の様々な分野及び立場の研究者、技術者が集まり、活発に議論し交流することができた。

●主な活動

2019年5月9日～5月10日 場所:早稲田大学国際会議場
シンポジウム「薬工連携に基づく新しい粒子設計・粉体プロセス」

2019年9月10日 場所:自然科学研究機構 分子科学研究所(愛知県岡崎市)
第1回ワークショップ(2019年度若手研究者討論会)
共催:中部談話会

2019年12月20日 場所:じゅうろくプラザ(岐阜県岐阜市)
第2回ワークショップ講演会

2020年8月21日 Zoom(Web会議アプリ)を使用したオンラインでの開催
第1回ワークショップ

●今後の予定

粉体工学に携わる若手研究者が中心となり、環境・省エネ・低コストをキーワードに、薬工連携による新しい粒子設計・粉体プロセスについて意見を交わしてきた。本ワークショップの活動を通じて、医薬品分野における粉体工学の先進研究の重要性を再認識するとともに、研究会として分野横断的に議論できる場が必要である考えに至った。現在「省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携研究会(仮)」として、研究会設立の申請中である。